校友時報

昭和45年12月21日
編集人県発行所
秋田県能代市追分町4番26号
秋田県立能代高等学校新聞部
印刷所　大勝堂印刷所

新校舎の設立が実現化

期成同盟会結成さる

校舎改築について

学校長　和田勝太郎

校舎改築のはなしが、ちらほら出るようになってから、だいぶ時間が経過した訳ですが、生徒諸君に、はきと報告できるような段階にまで及んでいなかったので、今日まで延引したことを、おわびしたいと思います。

さて、今回諸君に報告すると申しても、まだまだ流動的な部分が多くて、正確な線引きはできておりませんが、そのアウトラインだけは、お報せできると思いまして、述べてみることにいたします。

まず第一に、校舎改築のためには、それぞれ必要な条件がありまして、公の施設として、多数の児童生徒を収容するのに、安全性はどうか、危険はないかという点でありますが、そのことについては、その危険性の基準から言って、今すぐ危険であるとは言えないが、昭和十九年二月の大火で、校舎が焼失してから、謂わば、戦後の資材難の折に復興した校舎であるということを考えると、その老朽度は、自ら基準を越えた尺度でみることも、必要であるということになりましょう。

第二に、校舎の位置については、現在地にそのままという意見と、これからの教育にマッチした、よい環境づくりという点からすれば、他に広い土地を求むべきである、という意見がある訳でありますが、このことについては、同窓生の意見と、能代市に、通学生を出している、隣接町村の、各関係者に意見を求めたところ、現在地に、愛着が無いと言え他に移転も已むなしとか、通学利便が得られるのであれば、大いに賛成という声が強いので、期成同盟会としても、現在地をはなれて、他に土地を求めることで、意見の一致を見、能代市に対し、協力をお願いしております。

第三に、改築のための、着工の時期についてでありますが、学校としては、早期着工こそ、最も望ましいことであって、昭和四十七年度を、一応の目処としており、この線で、おしすすめて行きたいとの、同盟会の意向であります。

第四に、施設ならびに敷地等について申せば、普通教室二十一、特別教室、体育館、格技場（柔剣道）、プール、野球場（硬式軟式）陸上競技場（四〇〇―三〇〇のトラック）庭球コート（三面）その他附属建物および駐車場、前庭等を入れると、二万五千坪から三万坪（現在地は一万二千坪）はほしいと考えていますが、特にここで申し添えたいことは、四十八年度から、教育課程が大巾に変り、特別教育活動に、大きな変革が予想されますので、このための、施設設備の充実ということが、もっとも大きな留意点となりましょう

ともあれ、どのような学校が、どこに出来るのか、極めて関心の強いことでありますが、その線引きの、一日も早からんことを、諸君と共に祈りましょう。

緑に囲まれる新校舎を

校舎の老朽化がひどくなり、一日も早く新校舎設立を、という声が強くなっていたが、先程、校舎設立の期成同盟会が、我校出身の著名人および関係者各位によって結成され、ようやく校舎設立の夢が実現化してきた。

しかし、新校舎を設立するということは決定したものの、校舎の位置、着工時期等の具体的なものはまだ白紙の状態である。

校舎の老朽化は、それはひどいものである。掃除はきれいにするというより、これ以上汚なくならないようにするといったほうがあてはまる。冬ともなると、ガラスは風でガタガタ騒ぐし、窓のすきまからは風がはいってくるし、ストーブ付所の人以外は、コートを着なければならないような寒さなのである。能高祭のときに行なったアンケートに「汚ない学校でびっくりした」等の苦情が多かったのもうなづける。また、去年の話であるが一Dの教室にねずみが出没するという事件（？）があったねずみの住家になるほどの校舎なのである。

いろいろ悪口を並べたが、市内の高校のうち、我校だけが木造である点は非常に趣きがあり素晴しいと思う。特に、プラタナスの木々が連なりその奥に校舎がそびえている正門の景色は非常にロマンチックである。

緑の中に埋まり、芝生があり、長い校舎への道の両側にプラタナスの木々がそびえているような学校ができたら、と言っていた人がいたが、一日も早く理想的な新校舎が完成してほしいものである。

部説

表かんばんをたてる

□事を行なってからの理由づけなどはいくらでもできる。君は今、表かんばんを立てたりはしていないだろうか！つまり、ある行動をするときに、心の中には「オレはこれをやっているんだゾ」という意識的なものがあるだけで、その行動というのは本当に自分の心の欲求から端的に結びついたものではなく、惰性と意地と、そして外部への誇示だけに支配されているのではないか、ということなのだ。全てがそうだとは言わない。しかし、さきの三島由紀夫らの割腹自殺事件にしても彼らの心の中に歴史の中での自分の存在をより確固たらしめようという気持が本当に極くわずかかも知れないがあったのではないかと思うこともできる（他人の心情に対して勝手な判断をしたが）□自殺の方法に割腹というものを選んだということからもわずかにうかがわれる。

また学生の政治参加にしても、彼らが立てたプラカードだけは正しかったのだが、本当に彼らがそのプラカードそのままの純粋な心でいるかと言えばそれは、はなはだ疑問なことである。学生運動は邪道だと言っているのではない。彼らの心の中はある種の優越感にその全部とは言わないが、いくぶんかは占められているのではないか、ということだ。つまり、一つの非常に度胸のいる行動をして、「ザマーミロ、おまえらにこんなことができるか！」というようなたぐいの優越感である。

邪推だと言われる方もいるかも知れない。他人が何を考えているかは知るすべもないが、三島由紀夫らや学生運動家が、いわゆる異端者的な行動をとったその背景には、わずかかも知れないが（またそのほとんどかも知れないが）自分たちを英雄的なものに見た優越感のようなものが心の一部を占めたことは確実ではなかろうか。自己満足であってはならない。これは何事にも言えることだ。スポーツについても、勉強についても、男女交際の中にあってさえも。

君の行動は自分の存在を他人の目にとめようとする欲望のあらわれではないか？他人の羨望の目をあおろうとは思っていないか？

「俺は絶対にそんな、かんばんがけなどはしていない。」と言えるならいいが、少しでも思いあたるふしがあるのなら、君はもっと自分自身の心に対して素直な人間になることに努めるべきが。そして、決して自己顕示欲と優越感にかんばんをかけた行動などはとってはならない。

（二A　山谷）

巨濤の編集始まる

今回で発行回数十三回を数える卒業文集「巨濤（おおなみ）」の編集が始められた。

文集の内容は、卒業生が思う存分個性を発揮する、名物的存在の「一人一言」や、能高生の横顔等のほかに、能高生の生活実体をつかむためにアンケートを行なったり、市内の他校生から能高生観を書いてもらうなど、能高生気質を描こうとしているのが多い。

また、三年生にとって高校時代の思い出の一つになるべく「巨濤」が、予算の都合で発行できなくなるのでは、という心配もあったが、生徒会費が値上げされ、無事発行できるようになった。

編集委員は、三年生への素敵な文集をつくるために、懸命に頑張ってほしい。

◎編集委員◎

○委員長　山須田武光（二D）
○副委員長　田村雅彦（二一　）
○委員　庶務員（各HR）
大山敏昭（二F）
大倉浩一（二G）
逢田孝子（二G）
山須田健（一F）

学生のみせ
キムラヤ
畠町
2-5535

時評

オーディオブームに思う

近江谷　博（英語科）

最近若い人達の間でステレオ熱はすごいものだ。それもメーカが組み合わせたセットでなく、プレーヤー、アンプ、スピーカー、と各自が自分の好みで組み合わせるいわゆるコンポーネントステレオというやつだ。

私などもカタログを眺めては、あれがいいこれがいいと一喜一憂しているほうである。他の人から見ればまったくバカげているかもしれない。ステレオなんて音が出ればいいじゃないかと。

たしかに再生装置は本来、いかなる音楽でも、それぞれにその特徴を生かした忠実な再生をする機械であるにちがいない。しかし現実には、装置は決してそうしたオールマイティの客観性を持っていないのである。理論的にはともかくそれを現実の製品にするとなると、材質や製造工程、設計者の思想、感覚などが複雑にからみあって良かれ悪しかれ個性をもった音を出すようになる。

カートリッジを一つ交換しても、アンプを変えても、もちろん、スピーカー・システムを交換しても、音のおもむきは、がらりと表情を変える。

これがオーディオの問題であり、おもしろさである。いわばやっかいで不可解な機械であるし、それだけに自分の好みを追求していく余地と可能性がある。

オーディオは孤独な趣味であるといわれる。音は人なりといわれる。いずれも音に人生をかけた人達の偽らざる言葉であろう。

ジャズが録音再生というプロセスを経て、なおうったえかける感動のエネルギーは強烈である。しかし、そのプロセスにおいて、その何パーセントかが失われたりより強調されたりするこの事実に目を向けたい。

クラシックであれ、ジャズであれ、音楽の好きな人は音を大切にしなければならない。

素材を無視して全体があり得るか。より良い全体のためへのより良い素材の鍵をにぎるのが録音機器であり再生機器である。そして、そのより良い素材材からなる全体をリクエイトして真に自己の心に照らし合わせることのできる音楽にするのは、レコードやテープから音楽を受けとろうとしている人たちの努力による。その人たちの感性による。

機器はそうした人たちに選ばれるのを待っているし、正しい認識による扱いに忠実に応えるものだ。個性の伝達は個性ある媒体によらなければならない。個性が無個性の媒体を通過すると個性は失われる。

個性こそ、生命の所産であり、人がもたなければならないもっとも尊いものであるということを、多くのオーディオ製品から教えられる。

論点

今の高校生たちにとって少しでも楽しい満足な時間をもつことができるのは、深夜のDJ・マンガ・大学でも人気のあるなになに同好会・小グループでの生活などではないだろうかではなぜこれらのことに満足を感じるのだろうか。リクエストカードなどでなんとなく通じ合えるから、主人公が自分にできないことをカッコよくやってくれるから、あまり規制されずに好きなときにできるから、話しが合ってお互いがわかりあえるから、といったところではないだろうか。そして、自分の行動やその他もろもろのことをあまり他人に話したがらないだから、話してみると案外しっかりした考え方をしているなあなどと、驚かされることがよくある。

そう考えていくも、ある面では自分のやりたいことをせいいっぱいやっているといえよう。しかし、それだけでいいのだろうか。ほんとうの意味で心の底から楽しみ、満足しているのだろうか。民主主義だ。人間の自由だ。そんなことになれっこになり、その中で甘えきっているきらいはないだろうか話しの合わない者は一方的に他人になり、自分に損なことはけっしてしない、犠牲的な精神で、他人のためにどうにかしてやろうとする者はほとんどいない。我校にも受験受験だけで三年間過ごす者が多数いるではないか。単にそれを否定するつもりはないが、それで満足しているかということだ。一点二点の差でこの世が終わりでもあるかのようち、コセコセと騒いでいるのではないだろうか。DJもマンガも小グループの活動もいいだろう。しかしそれがすべてだと思ってはいけないような気がする。我々高校生のまだ未熟なエネルギーは、より大きなものへぶつかっていこうと、うずうずしているのではないだろうか。

蛇足ながらこれを書くに至って岩波文庫「高校生」に影響されたところが非常に大であるので、暇な者は読んでもらいたい。

メガネのカモヤ
畠町　T2―3740

カラー、白黒のDPE
カメラ修理は
西巻写真工房
能代市追分町二ー二五

ビギナーから
ベテランまで！
スポーツ用品の専門店
秋林運動具店
北校通り　T②3257

⊙毎日の健康管理に
純正クロレラ（保健食品）を⊙
塚本薬局
畠町　T②5144

◇贈り物には時計・万年筆が最適◇
△△△△△△
吉田時計店
柳町　T②5573